



6
印

6

骨の

いたくさんね。どんぶに届くとも夏中には新
 い家に住のといつた。(縁側に腰かける)
 光子 一日も早く濱の家(新らしい)に引越した。あ
 なたの気分だけでも變らうし、病気にい
 たらうと思つて、竹世山さんに無理をお願ひさ
 て金を買していいね。いいねのです。
 秀作 さういへばわしも藤川の心持ちのわ
 らあくおるの、何でおんおに工事を急せ
 のか。大工がうたいて一人で行く
 おるんね。し... 塩梅 雪が降る
 にはつて山を濱の新らしい家には
 光子 あおたはまた藤川を信じてもい
 んですわね。
 秀作 だつて藤川はわたしの兄ではあ
 光子 じゃあおたはたまたま信じ
 秀作 十年とわしの家におるんね。
 光子 さうです。たまたまおん家の
 一二十年はありませぬ。あの女が十六の時
 でした。脚の骨が痛む病で、その
 つとおい瓦のでは、府屋がすん
 片脚却らね

MARUZEN I

